

横浜開港のシンボルツリー「たまくすの木」グッズ第3弾！ オリジナルデザインマグカップ販売開始！

横浜開港資料館は、安政元（1854）年のペリー提督の横浜上陸を見守り、横浜開港のシンボルツリーとして多くの市民に親しまれている「たまくすの木」をモチーフにしたオリジナルグッズの第3弾としてマグカップを制作しました。

横浜開港資料館ミュージアムショップ&カフェ PORTER'S LODGE にて3月20日より販売を開始いたします。

たまくすの木 オリジナルデザインマグカップ

陶器の白地にグリーンのたまくすの木を配置。シンプルで使いやすいデザインになりました。

マグカップは横浜元町テーブルウェア専門店「タカラダ」に製作を依頼し、底面にはタカラダのロゴマークと横浜開港資料館のロゴをあしらいました。

【価格】2,500円(税込)

【素材】陶器

【サイズ】高さ:約8cm 直径:約8cm



たまくすの木のデザインについて



デザイン制作：株式会社オールスタッフ

円形に大きく広がるデフォルメされた枝に、葉っぱと種をイメージした丸い模様が表現されています。

江戸時代の大火や関東大震災の被災を乗り越えて芽吹いた、たまくすの特徴と歴史を象徴した、のびのびとしていてかわいらしいデザインです。

現在のたまくすの木
(令和7年撮影)



裏面に続きます→

たまくすの木について

○横浜開港のシンボルツリー たまくすの木

横浜開港資料館の中庭に佇むタブノキは通称「たまくす（玉楠）」「たまくすの木」と呼ばれ、横浜が小さな農漁村であったころからこの地にあったとされ、その姿は嘉永7（1854）年に日米和親条約締結のため横浜へ訪れたペリー提督に随行してきた画家ハイネが描いた「ペリー提督・将兵の横浜上陸図」にも描かれています。

たまくすの木は、慶応2（1866）年の横浜大火、大正12（1923）年の関東大震災と2度の災害に見舞われ焼けてしまったにもかかわらず、その度に残った根から再び芽吹き、絶えることなくたくましく成長していきました。

関東大震災の後、当初の位置から現在の旧英国総領事館の正面へ植え替えられました。そして、横浜開港を象徴する地域文化財として昭和63（1988）年11月1日に登録され、今日も横浜を見守り続けています。

○たまくすの木の維持管理とバリアフリーデッキ

たまくすの木の土壌改良や枝葉の剪定といった日常メンテナンスや今回のウッドデッキの整備は、横浜開港資料館を運営する公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団と協定を締結している一般社団法人かながわ樹木医会に委託しています。会員樹木医209名を擁する当団体はたまくすの木を守り未来へつなげるパートナーです。



「ペリー提督・将兵の横浜上陸図」
横浜開港資料館蔵



関東大震災で焼けたたまくすの木

ミュージアムショップ&カフェ PORTER'S LODGE



「横浜開港・英国文化を伝えるセレクトショップ」として令和5（2023）年7月にオープンしました。

平常時は横浜中華街や元町商店街、山下公園通りで営業する店舗などから、横浜の歴史を伝える商品などを仕入れて販売するほか、展覧会のテーマにあわせた期間限定セールやフェアの開催、旧英国総領事館や英国文化を伝える商品、横浜開港の歴史を伝える資料館所蔵資料を活かしたオリジナル商品を開発販売します。

ペリーが上陸した開港の地横浜の原点から、ミュージアムショップ（買う）、カフェ（味わう）の機能を通じ、YMC地区（山下公園・横浜中華街・元町商店街）へのコンシェル（導く）を実現します。

住所 横浜市中区日本大通3
（横浜開港資料館敷地内
開港広場側）

電話 045-212-1810



お問合せ先

横浜開港資料館 副館長：青木祐介 広報：加藤七海 羽毛田智幸

TEL045-201-2100